

2018年6月19日

頭の整理 補遺 6

竹濤軒

共産党が、2015年11月12日に近畿財務局の担当者と大阪航空局の担当者が協議した文書を新たに入手したとして公表した。内容は安倍昭恵氏付の谷査恵子氏から財務省に問い合わせがあったことを大阪航空局に伝えるものである。

NHK NEWS WEB 2018年6月18日 21時30分

「森友学園めぐる文書 昭恵氏付き職員から問い合わせが記載」

https://www3.nhk.or.jp/news/html/20180618/k10011484191000.html?utm_int=word_contents_list-

[items_001&word_result=%E6%A3%AE%E5%8F%8B%E5%AD%A6%E5%9C%92%E5%95%8F%E9%A1%8C](https://www3.nhk.or.jp/news/html/20180618/k10011484191000.html?utm_int=word_contents_list-items_001&word_result=%E6%A3%AE%E5%8F%8B%E5%AD%A6%E5%9C%92%E5%95%8F%E9%A1%8C)

2018年6月19日閲覧

財務省が公表した「森友学園等との交渉記録」中の同日付の文書（pp722-723）には、同日の午前に田村国有財産審理室長が電話で谷氏の質問に回答したことが記されている。この件が同日中に近畿財務局に伝えられ、さらに大阪航空局に連絡されたものであろう。

これについて、共産党は「昭恵氏付きだった職員が森友学園の側に立って賃料の減額をお願いしているメモになっている。恣意的に隠蔽していると疑われてもしかたがない。」とコメントしている。しかし、谷氏の照会取次ぎの件は、周知の話であるし、財務省の公表した資料集の中にも、まさに谷氏を通しての照会に関する文書が含まれている（p.721）のであるから、いまさら隠蔽がどうのこうのという話ではあるまい。今回発見された文書が財務省が公表した文書群に含まれていないのは、単に財務省本省では紛失してしまったということではないだろうか。むしろ、共産党はこんな資料をよく見つけてくるものだと感心する。あらゆる組織に優秀な間者を配しているかのようである。

共産党の志位和夫氏は、森友問題の幕引きは許さないと力んでおられるようであるが、こんな話しか出てこないようでは、もう終わりと見てよかろう。私の森友問題関連の文書の検討はここで打ち止めとしたい。

付記

朝日新聞取材班『権力の「背信」：「森友・加計学園問題」スクープの現場』（朝日新聞出版、2018年）「第一部 森友学園・国有地売却問題」を読んだ感想である

まず、この本から確認できることは、

- ・多士済々で経験豊富な朝日新聞の大勢の記者たちが総力を挙げて森友問題取材してきたこと
- ・それによって籠池氏の種々の補助金不正を暴くことに成功したこと
- ・公文書改ざんの実態をスクープし財務省に膨大な公文書群を公開させたこと
- ・しかし、安倍政権批判と森友学園問題を結びつけることには成功していないこと

である。

現場の士気の高さや見事な仕事振りについて、やや自画自賛の印象の強い本である。むしろそれだけの人材を投入してなおかつ最後の課題に失敗していることについて、今は冷静な反省が必要なのではないか。プライドが邪魔をして、引くに引けなくなっているのかもしれない。そうだとしたら困ったことだと思う。

この本の特徴は、財務省の公表文書の内容についてあまり触れず、あくまで取材内容に即して、この問題を論じようとしている点である。これも新聞記者の矜持なのであろうか。しかし、森友問題の場合、残念ながら優秀な記者の取材内容より公開された公文書の情報のほうが詳細で信頼に足るものであったようだ。その意味で朝日新聞の最大の功績は、公文書の公開に財務省を追い込んだことである。このこと自体はいくら賞賛しても賞賛したりない。

しかし、結果は残酷である。『朝日新聞』の最良の新聞記者の取材が公開された公文書にかなわなかったことに加えて、『朝日新聞』は公文書を丁寧に読むということにおいてもよい成績を収めてはいない。